

◆進級・卒業要件◆

法学部では進級および卒業するための要件を設けています。
下位年次から計画的に単位を修得しておくことが重要です。

◆進級要件◆

区分	履修要件
2 年次への進級	2 年次の配当授業科目を履修するためには、1 年次の配当授業科目のうち、「法学基礎演習Ⅰ」および「法学基礎演習Ⅱ」を修得していること。
3 年次への進級	3 年次の配当授業科目を履修するためには、1 年次および2 年次の配当授業科目のうち、「法学基礎演習Ⅰ」、「法学基礎演習Ⅱ」、「プレ専門演習」、「専門演習Ⅰ」、「法学概論Ⅰ」および「法学概論Ⅱ」を修得していること。
4 年次への進級	4 年次の配当授業科目を履修するためには、1 年次、2 年次および3 年次の配当授業科目のうち、専門科目から7 0 単位以上(「法学基礎演習Ⅰ」、「法学基礎演習Ⅱ」、「プレ専門演習」、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」、「法学概論Ⅰ」および「法学概論Ⅱ」を含む)、教養科目から3 0 単位以上(分野は問わない)、総計1 0 0 単位以上を修得していること。

◆卒業要件◆

(1) 卒業に必要な単位数(コース別) ※コース配属は、2 年次からとなります。

区分			法律学特修 コース	企業法務 コース	地域政策 コース	スポーツ 法政策コース
専門科目	必修科目		2 0 単位			
	選択必修科目		4 0 単位以上			
	選択科目		2 6 単位以上			
	合計		8 6 単位以上			
教養科目	選択必修科目	自然・情報科学系	1 単位以上			
		国際教養系	3 単位以上			
		人間力系	1 単位以上			
	選択科目	人文・社会科学系	2 単位以上			
		自然・情報科学系または人間力系	1 単位以上			
	合計		3 8 単位以上			
総計			1 2 4 単位以上			

- 注1 各コースの所定単位数を超えて修得した専門科目の選択必修科目の単位数は、専門科目の選択科目の単位数として算入する。
- 注2 外国人留学生にあっては、教養科目の区分において外国人留学生対象としている授業科目の修得単位のうち、日本語読解F、日本語文法F、日本語表現作文Fの3 単位までを教養科目の国際教養系の修得単位数(選択必修単位要件含む)に、日本語総合Fを教養科目の自然・情報科学系の修得単位数(選択必修単位要件含む)に、専門日本語Fを教養科目の人間力系の修得単位数(選択必修単位要件含む)に、また、日本事情F、I およびFⅡ、日本語会話FⅠおよびFⅡ、日本語会話応用FⅠからFⅪの17 単位までを教養科目の選択科目の修得単位数(人文・社会科学系自然・情報科学系または人間力系の単位要件含む)に代えることができる。

(2) 卒業に必要なG P A 値

入学時からの累積G P A (後述) が1. 3 以上であること。

◆G P A 制度について◆

本学部では、G P A 制度を導入しています。G P A とは、「成績の評語」に対応する数値として、「G P (GradePoint)」を付与し、履修した授業科目のG P に単位数を乗じた値の総和に対して、同授業科目の単位あたりの平均を算出した値のことです。これは各科目の成績平均値「G P A (Grade Point Average)」を用いて、単位数という学修の量だけではなく、成績評価に基づく質を重んじた学修をしてもらおうという制度です。

G P A は、各学生の指導担当教員が履修指導を行う際の指標として活用するほか、卒業要件にG P A 1. 3 以上であることが含まれています。履修申請した科目のうち不合格科目が多くある場合、G P A を下げることになりますので、計画的に履修登録し、履修放棄などは避けて、履修登録した科目は最後まで受講するか、履修辞退制度を活用することが重要です。

成績の評語とG P の対応表およびG P A 計算式は次のとおりです。成績の評語は入学年度により異なります。

【2 0 2 5 年度以降入学生】

成績	評語	G P (グレードポイント)	可否
認定	T		認定
1 0 0 点～9 0 点	S	4	合格
8 9 点～8 0 点	A	3	
7 9 点～7 0 点	B	2	
6 9 点～6 0 点	C	1	
5 9 点～4 0 点	D	0	不合格
3 9 点～0 点	E		
評価不能	*		

【2 0 2 4 年度以前入学生】

成績	評語	G P (グレードポイント)	可否
認定	T		認定
1 0 0 点～9 0 点	A	4	合格
8 9 点～8 0 点	B	3	
7 9 点～7 0 点	C	2	
6 9 点～6 0 点	D	1	
5 9 点～4 0 点	E	0	不合格
3 9 点～0 点	F		
定期試験未受験、 評価不能	*		

$$G P A = \frac{(4 \times S \text{【A】の修得単位数}) + (3 \times A \text{【B】の修得単位数}) + (2 \times B \text{【C】の修得単位数}) + (1 \times C \text{【D】の修得単位数})}{\text{履修した授業科目の単位数の総和 (不合格科目の単位数含む・履修辞退科目の単位数は含めない)}}$$

※【】内は2 0 2 4 年度以前入学生の評語です。

◆単位修得状況欄の確認方法について◆

単位修得状況欄については【略称】で表記されます。
下表の正式名称を参照し、進級・卒業要件の確認にご活用ください。

成績用科目分類（略称）	成績用科目分類（正式名称）
判定対象	判定対象科目
専門	◆専門◆
必修	《必修》
選必	《選択必修》
選択	《選択》
専門選択	【専門選択】
資格認定	【資格認定】
その他	【その他】
教養	◆教養◆
選必	《選択必修》
自然情報	【自然・情報科学系】
国際教養	【国際教養系】
人間力	【人間力系】
選択	《選択》
人文社会	【人文・社会科学系】
選択A群	【自然・情報科学系、人間力系】選択A群
自然情報	〔自然・情報科学系〕
人間力	〔人間力系〕
国際教養	【国際教養系】
教養特別	【教養特別系】
他学部	【他学部・他学科科目】
留帰学生	【外国人留学生・帰国学生対象科目】
資格認定	【資格認定】
高大接続	【高大接続】
判定外	判定対象外科目
教職課程	◆教職課程科目◆

■問い合わせ先 教 務 課 072-800-1033/ 072-839-9106

◆進級・卒業要件◆

本学部では進級および卒業するための要件を設けています。

下位年次から計画的に単位を修得しておくことが重要です。

◆進級要件◆

区分	履修要件
2 年次への進級	2 年次の配当授業科目を履修するためには、1 年次の配当授業科目のうち、「法学基礎演習Ⅰ」および「法学基礎演習Ⅱ」を含め、専門科目ならびに教養科目から総計 2 6 単位以上を修得していること。
3 年次への進級	3 年次の配当授業科目を履修するためには、1 年次および 2 年次の配当授業科目のうち、「法学基礎演習Ⅰ」、「法学基礎演習Ⅱ」、「ブレ専門演習」、「専門演習Ⅰ」、「法学概論Ⅰ」および「法学概論Ⅱ」、教養科目の必修科目を 4 単位以上、選択必修科目を 2 単位以上、人文科学系から 2 単位、社会科学系から 2 単位、自然・科学技術系またはスポーツ系から 2 単位を含め、総計 6 0 単位以上を修得していること。
4 年次への進級	4 年次の配当授業科目を履修するためには、1 年次、2 年次および 3 年次の配当授業科目のうち、専門科目から 7 0 単位以上（「法学基礎演習Ⅰ」、「法学基礎演習Ⅱ」、「ブレ専門演習」、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」、「法学概論Ⅰ」および「法学概論Ⅱ」を含む）、教養科目の必修科目を 7 単位以上、選択必修科目を 3 単位以上、選択科目 2 0 単位以上を含め、総計 1 0 0 単位以上を修得していること。

◆卒業要件◆

(1) 卒業に必要な単位数（コース別）※コース配属は、2 年次からとなります。

区分			法学特修 コース	企業法務 コース	地域政策 コース	スポーツ 法政策コース
専門 科目	必修科目		2 0 単位			
	選択必修科目		4 0 単位以上			
	選択科目		2 6 単位以上			
	合計		8 6 単位以上			
教養 科目	必修科目		7 単位			
	選択 必修 科目	英語系、スポーツ系または数理・情報系	2 単位以上			
		日本語系、キャリアデザイン系 または共通基礎系	3 単位以上			
	選択 科目	人文科学系	2 単位以上			
		社会科学系	2 単位以上			
		自然・科学技術系またはスポーツ系	2 単位以上			
		小計	2 6 単位以上			
	合計		3 8 単位以上			
総計		1 2 4 単位以上				

- 注 1 各コースの所定単位数を超えて修得した専門科目の選択必修科目の単位数は、専門科目の選択科目の単位数として算入する
- 注 2 教養科目の選択必修科目の修得単位数のうち、所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目（人文科学系、社会科学系、自然・科学技術系、スポーツ系を除く）の修得単位数として算入することができる。
- 注 3 外国人留学生にあつては、教養科目の区分において外国人留学生対象としている授業科目の修得単位のうち、日本語読解 FⅠおよび FⅡ、日本語文法 FⅠおよび FⅡ、日本語表現作文 FⅠおよび FⅡ から 6 単位までを教養科目の英語系、スポーツ系または数理・情報系の修得単位数（必修・選択必修単位要件含む）に、また、日本事情 FⅠおよび FⅡ、日本語総合 FⅠおよび FⅡ から 6 単位までを教養科目の日本語系、キャリアデザイン系または共通基礎系の修得単位数（必修・選択必修単位要件含む）に、専門日本語 FⅠおよび FⅡ、日本語会話 FⅠ から FⅧ までから 1 0 単位までを、注 2 にかかわらず、教養科目の修得単位数（人文科学系、社会科学系、自然・科学技術系またはスポーツ系の単位数要件含む）に代えることができる。

(2) 卒業に必要な G P A 値

入学時からの累積 G P A（後述）が 1. 3 以上であること。

◆G P A 制度について◆

本学部では、G P A 制度を導入しています。G P A とは、「成績の評語」に対応する数値として、「G P (GradePoint)」を付与し、履修した授業科目の G P に単位数を乗じた値の総和に対して、同授業科目の単位あたりの平均を算出した値のことです。これは各科目の成績平均値「G P A (Grade Point Average)」を用いて、単位数という学修の量だけではなく、成績評価に基づく質を重んじた学修をしてもらおうという制度です。

G P A は、各学生の指導担当教員が履修指導を行う際の指標として活用するほか、卒業要件に G P A 1. 3 以上であることが含まれています。履修申請した科目のうち不合格科目が多くある場合、G P A を下げることになりますので、計画的に履修登録し、履修放棄などは避けて、履修登録した科目は最後まで受講するか、履修辞退制度を活用することが重要です。

成績の評語と G P の対応表および G P A 計算式は次のとおりです。

成績	評語	G P (グレードポイント)	可否
認定	T		認定
1 0 0 点～9 0 点	A	4	合格
8 9 点～8 0 点	B	3	
7 9 点～7 0 点	C	2	
6 9 点～6 0 点	D	1	
5 9 点～4 0 点	E	0	不合格
3 9 点～0 点	F		
定期試験未受験、 評価不能	*		

$$G P A = \frac{(4 \times A \text{ の修得単位数}) + (3 \times B \text{ の修得単位数}) + (2 \times C \text{ の修得単位数}) + (1 \times D \text{ の修得単位数})}{\text{履修した授業科目の単位数の総和 (不合格科目の単位数含む・履修辞退科目の単位数は含めない)}}$$

◆単位修得状況欄の確認方法について◆

単位修得状況欄については【略称】で表記されます。
下表の正式名称を参照し、進級・卒業要件の確認にご活用ください。

成績用科目分類（略称）	成績用科目分類（正式名称）
判定対象	判定対象科目
専門	◆専門◆
必修	≪必修≫
選必	≪選択必修≫
選択	≪選択≫
専門選択	【専門選択】
資格認定	【資格認定】
その他	【その他】
教養	◆教養◆
必修	≪必修≫
選必	≪選択必修≫
選必A群	【英語系、スポーツ系、数理・情報系】選必A群
英語	〔英語系〕
スポーツ	〔スポーツ系〕
数理情報	〔数理・情報系〕
選必B群	【日本語系、キャリアデザイン系、共通基礎系】選必B群
日本語	〔日本語系〕
キャリア	〔キャリアデザイン系〕
共通基礎	〔共通基礎系〕
選択	≪選択≫
人文科学	【人文科学系】
社会科学	【社会科学系】
選択A群	【自然・科学技術系、スポーツ系】選択A群
自然科学	〔自然・科学技術系〕
スポーツ	〔スポーツ系〕
その他	【その他】
教養特別	【教養特別系】
他学部	【他学部・他学科科目】
他学部英	〔他学部 英語系〕
他学部外	〔他学部 外国語系〕
他学部他	〔他学部 その他〕
留帰学生	【外国人留学生・帰国学生対象科目】
資格認定	【資格認定】
判定外	判定対象外科目
教職課程	◆教職課程科目◆

■問い合わせ先 教 務 課 072-800-1033/ 072-839-9106

◆進級・卒業要件◆

本学部では進級および卒業するための要件を設けています。

下位年次から計画的に単位を修得しておくことが重要です。

◆進級要件◆

区分	履修要件
2 年次への進級	1 年次の配当授業科目のうち「法学基礎演習Ⅰ」および「法学基礎演習Ⅱ」を含め、専門科目ならびに教養科目から総計 26 単位以上を修得していること。
3 年次への進級	1、2 年次の配当授業科目のうち「法学基礎演習Ⅰ」、「法学基礎演習Ⅱ」、「ブレ専門演習」、「専門演習Ⅰ」および「法学概論」、教養科目の必修科目を 4 単位以上、選択必修科目を 2 単位以上、人文科学系から 4 単位、社会科学系から 4 単位、自然・科学技術系またはスポーツ系から 4 単位（うち自然・科学技術系 2 単位を含む）を含め、総計 60 単位以上を修得していること。
4 年次への進級	1～3 年次の配当授業科目のうち、専門科目から 70 単位以上（「法学基礎演習Ⅰ」、「法学基礎演習Ⅱ」、「ブレ専門演習」、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」および「法学概論」を含む）、教養科目の必修科目を 7 単位以上、選択必修科目を 3 単位以上、選択科目 20 単位以上を含め、総計 100 単位以上を修得していること。

◆卒業要件◆

(1) 卒業に必要な単位数（コース別）※コース配属は、2 年次からとなります。

区 分			法学特修 コース	企業法務 コース	地域政策 コース	スポーツ法政策 コース
専門科目	必修科目		18単位			
	選択必修科目		44単位以上	40単位以上	40単位以上	38単位以上
	選択科目		24単位以上	28単位以上	28単位以上	30単位以上
	小計		86単位以上			
教養科目	必修科目		7単位			
	選択必修 科目	英語系、スポーツ系 または数理・情報系	2単位以上			
		日本語系、キャリアデザイ ン系または共通基礎系	3単位以上			
	選択科目	人文科学系	6単位以上			
		社会科学系	6単位以上			
		自然・科学技術系	6単位以上 ただし、自然・科学技術系2単位以上を含む			
		スポーツ系（科目名称の前 に◎を付した科目）				
		小計（上記4系統含む）	26単位以上			
	合計		38単位以上			
総計			124単位以上			

- 注 1 各コースの所定単位数を超えて修得した専門科目の選択必修科目の単位数は、専門科目の選択科目の単位数として算入する。
- 注 2 教養科目の選択必修科目の修得単位数のうち、英語系または数理・情報系の所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目（人文科学系、社会科学系、自然・科学技術系、スポーツ系を除く）の修得単位数として算入することができる。
- 注 3 外国人留学生にあっては、教養科目の区分において外国人留学生対象としている授業科目の修得単位のうち、日本語読解 FⅠ および FⅡ、日本語文法 FⅠ および FⅡ、日本語表現作文 FⅠ および FⅡ から 6 単位までを教養科目の英語系、スポーツ系または数理・情報系の修得単位数（必修・選択必修単位数要件含む）に、また、日本事情 FⅠ および FⅡ、日本語総合 FⅠ および FⅡ から 6 単位までを教養科目の日本語系、キャリアデザイン系または共通基礎系の修得単位数（必修・選択必修単位数要件含む）に、専門日本語 FⅠ および FⅡ、日本語会話 FⅠ から FⅦ までから 10 単位までを、注 2 にかかわらず、教養科目の修得単位数（人文科学系、社会科学系、自然・科学技術系またはスポーツ系の単位数要件含む）に代えることができる。

(2) 卒業に必要な G P A 値

入学時からの累積 G P A（後述）が 1.3 以上であること。

◆G P A 制度について◆

本学部では、G P A 制度を導入しています。

G P A とは、「成績の評語」に対応する数値として、「G P (Grade Point)」を付与し、履修した授業科目の G P に単位数を乗じた値の総和に対して、同授業科目の単位あたりの平均を算出した値のことです。これは各科目の成績平
均値「G P A (Grade Point Average)」を用いて、単位数という学修の量だけではなく、成績評価に基づく質を重んじた学修をせよという制度です。

G P A は、各学生の指導担当教員が履修指導を行う際の指標として活用するほか、卒業要件に G P A 1.3 以上であることが含まれています。履修申請した科目のうち不合格科目が多くある場合、G P A を下げることになりますので、計画的に履修登録し、履修放棄などは避けて、履修登録した科目は最後まで受講するか、履修辞退制度を活用することが重要です。

成績の評語と G P の対応表および G P A 計算式は次のとおりです。

成績	評語	G P (グレードポイント)	合否
認定	T		認定
100 点～90 点	A	4	合格
89 点～80 点	B	3	
79 点～70 点	C	2	
69 点～60 点	D	1	
59 点～40 点	E	0	不合格
39 点～0 点 定期試験未受験、 評価不能	*		

$$G P A = \frac{(4 \times A \text{ の修得単位数}) + (3 \times B \text{ の修得単位数}) + (2 \times C \text{ の修得単位数}) + (1 \times D \text{ の修得単位数})}{\text{履修した授業科目の単位数の総和 (不合格科目の単位数含む・履修辞退科目の単位数は含めない)}}$$

◆単位修得状況欄の確認方法について◆

単位修得状況欄については【略称】で表記されます。
下表の正式名称を参照し、進級・卒業要件の確認にご活用ください。

成績用科目分類（略称）	成績用科目分類（正式名称）
判定対象	判定対象科目
専門	◆専門◆
必修	《必修》
選必	《選択必修》
選択	《選択》
専門選択	【専門選択】
資格認定	【資格認定】
その他	【その他】
教養	◆教養◆
必修	《必修》
選必	《選択必修》
選必A群	【英語系、スポーツ系（◎無科目）、数理・情報系】選必A群
英語	〔英語系〕
スポーツ	〔スポーツ系（◎無科目）〕
数理情報	〔数理・情報系〕
選必B群	【日本語系、キャリアデザイン系、共通基礎系】選必B群
日本語	〔日本語系〕
キャリア	〔キャリアデザイン系〕
共通基礎	〔共通基礎系〕
選択	《選択》
人文科学	【人文科学系】
社会科学	【社会科学系】
選択A群	【自然・科学技術系、スポーツ系（◎有科目）】選択A群
自然科学	〔自然・科学技術系〕
スポーツ	〔スポーツ系（◎有科目）〕
その他	【その他】
教養特別	【教養特別系】
他学部	【他学部・他学科科目】
他学部英	〔他学部 英語系〕
他学部外	〔他学部 外国語系〕
他学部他	〔他学部 その他〕
留帰学生	【外国人留学生・帰国学生対象科目】
資格認定	【資格認定】
判定外	判定対象外科目
教職課程	◆教職課程科目◆

■問い合わせ先 教 務 課 072-800-1033/ 072-839-9106

◆進級・卒業要件◆

本学部では進級および卒業するための要件を設けています。

下位年次から計画的に単位を修得しておくことが重要です。

◆進級要件◆

区分	履修要件
2 年次への進級	1 年次の配当授業科目のうち「法学基礎演習Ⅰ」および「法学基礎演習Ⅱ」を含め、専門科目、基礎科目、教養科目ならびにキャリア形成科目から総計 26 単位以上を修得していること。
3 年次への進級	1、2 年次の配当授業科目のうち「法学基礎演習Ⅰ」、「法学基礎演習Ⅱ」、「プレ専門演習」、「専門演習Ⅰ」および「法学概論」、基礎科目 4 単位以上、教養科目の人文系、社会系、自然系のそれぞれから 4 単位の 12 単位以上、そしてキャリア形成科目の「キャリアデザインⅠ」あるいは「キャリアデザインⅡ」を含む 2 単位以上を含め、総計 60 単位以上を修得していること。
4 年次への進級	1～3 年次の配当授業科目のうち、専門科目から 70 単位以上（「法学基礎演習Ⅰ」、「法学基礎演習Ⅱ」、「プレ専門演習」、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」および「法学概論」を含む）、基礎科目 6 単位以上、教養科目 20 単位以上およびキャリア形成科目から 4 単位以上（「キャリアデザインⅠ」および「キャリアデザインⅡ」を含む）の総計 100 単位以上を修得していること。

◆卒業要件◆

(1) 卒業に必要な単位数（コース別）

区 分		法学特修 コース	企業法務 コース	地域政策 コース	スポーツ法政策 コース
専門科目	必修科目	18単位			
	選択必修科目	44単位以上	40単位以上	40単位以上	38単位以上
	選択科目	24単位以上	28単位以上	28単位以上	30単位以上
	小計	86単位以上			
基礎科目	必修科目	4単位			
	選択必修科目	2単位以上			
	選択科目	—			
	小計	6単位以上			
教養科目	必修科目	—			
	選択必修科目	—			
	選択科目	人文系	6単位以上		
		社会系	6単位以上		
		自然系	6単位以上		
	小計（3系統を含む）	26単位以上			
形成キャリア	必修科目	2単位			
	選択必修科目	選択必修科目3単位以上を含む4単位以上			
	選択科目				
	小計	6単位以上			
計		124単位以上			

- 注1 各コースの所定単位数を超えて修得した専門科目の選択必修科目の単位数は、専門科目の選択科目の単位数として算入する。
- 注2 基礎科目の所定の単位数を超えて修得した単位数は、4 単位を上限として教養科目（人文系、社会系、自然系を除く）の修得単位数として算入することができる。
- 注3 外国人留学生にあっては、基礎科目の区分において外国人留学生対象としている授業科目の修得単位のうち日本語読解 FⅠおよび FⅡ、日本語文法 FⅠおよび FⅡ、日本語表現作文 FⅠおよび FⅡから 6 単位までを基礎科目の修得単位数に、また、日本事情 FⅠおよび FⅡ、日本語総合 FⅠおよび FⅡから 6 単位までをキャリア形成科目の修得単位数に、専門日本語 FⅠおよび FⅡ、日本語会話 FⅠから FⅧまでから 10 単位までを、注2にかかわらず教養科目の修得単位数に代えることができる。

(2) 卒業に必要な G P A 値

入学時からの累積 G P A（後述）が 1.3 以上であること。

◆G P A 制度について◆

本学部では、G P A 制度を導入しています。

G P A とは、「成績の評語」に対応する数値として、「G P (Grade Point)」を付与し、履修した授業科目の G P に単位数を乗じた値の総和に対して、同授業科目の単位あたりの平均を算出した値のことです。これは各科目の成績平均値「G P A (Grade Point Average)」を用いて、単位数という学修の量だけではなく、成績評価に基づく質を重んじた学修をしてもらおうという制度です。

G P A は、各学生の指導担当教員が履修指導を行う際の指標として活用するほか、卒業要件に G P A 1.3 以上であることが含まれています。履修申請した科目のうち不合格科目が多くある場合、G P A を下げることになりますので、計画的に履修登録し、履修放棄などは避けて、履修登録した科目は最後まで受講するか、履修辞退制度を活用することが重要です。

成績の評語と G P の対応表および G P A 計算式は次のとおりです。

成績	評語	G P (グレートポイント)	可否
認定	T		認定
100 点～90 点	A	4	合格
89 点～80 点	B	3	
79 点～70 点	C	2	
69 点～60 点	D	1	
59 点～40 点	E	0	不合格
39 点～0 点	F		
定期試験未受験、 評価不能	*		

$$G P A = \frac{(4 \times A \text{ の修得単位数}) + (3 \times B \text{ の修得単位数}) + (2 \times C \text{ の修得単位数}) + (1 \times D \text{ の修得単位数})}{\text{履修した授業科目の単位数の総和 (不合格科目の単位数含む・履修辞退科目の単位数は含めない)}}$$

◆単位修得状況欄の確認方法について◆

単位修得状況欄については【略称】で表記されます。
下表の正式名称を参照し、進級・卒業要件の確認にご活用ください。

成績用科目分類（略称）	成績用科目分類（正式名称）
判定対象	判定対象科目
専門	◆専門◆
必修	≪必修≫
選必	≪選択必修≫
選択	≪選択≫
専門選択	【専門選択】
資格認定	【資格認定】
その他	【その他】
基礎	◆基礎◆
必修	≪必修≫
選必	≪選択必修≫
選択	≪選択≫
留帰学生	【外国人留学生・帰国学生対象科目】
留帰以外	【外国人留学生・帰国学生対象科目以外】
教養	◆教養◆
選択	≪選択≫
人文系	【人文系】
社会系	【社会系】
自然系	【自然系】
その他	【その他】
教養特別	【教養特別系】
他学部	【他学部・他学科科目】
他学部外	〔他学部 外国語・海外事情〕
他学部他	〔他学部 その他〕
資格認定	【資格認定】
キャリア	◆キャリア形成◆
必修	≪必修≫
選必	≪選択必修≫
選択	≪選択≫
判定外	判定対象外科目
教職課程	◆教職課程科目◆

■問い合わせ先 教 務 課 072-800-1033/ 072-839-9106